

救助技術訓練一般公開

～救助にかける隊員たち～

～救助とは～

救助隊員は交通事故や火災などから皆さんの尊い命を守るため、日々厳しい訓練を通じて、体力と技術の向上に努めています。

この訓練の延長として、毎年この時期に全国の消防職員が日頃鍛えた救助技術の成果を披露し、その安全性と確実性を評価する大会が開催されています。

当消防本部では選抜された精鋭が6種目の競技を大会に向け、休日を活用した強化訓練を行っていますので、ご声援よろしくお願ひします。

～訓練種目紹介～

はしご登はん



この訓練は1人で行い、塔前5メートルの位置からスタートし、自己確保の結索を行った後、垂直はしごを15メートル登り、その安全確実性と所要時間を評価します。

ロープ応用登はん



この訓練は2人1組で行い、登はん者(登る者)が塔前2メートルの位置からスタートし、補助者と協力して、器具を使わずに15メートルまでロープを登り、その安全確実性と所要時間を評価します。

ほふく救出



この訓練は3人1組で行い、2人が10メートル後方からスタートし、空気呼吸器を着装して確保ロープ等を両足首に結着した後、長さ8メートルの煙道を検索して要救助者を救出し、搬送するまでのその安全確実性と所要時間を評価します。

ロープブリッジ渡過



この訓練は1人で行い、水平に張られた渡過ロープのスタート地点から折り返し地点までの往復40メートルを往路はセーラー渡過、復路はモンキー渡過し、その安全確実性と所要時間を評価します。

ロープブリッジ救出



この訓練は4人1組で行い、対面する塔上の要救助者を救出するため、2人が設定された渡過ロープより進入、要救助者に結着して救出し、脱出するまでのその安全確実性と所要時間を評価します。

引揚救助



この訓練は5人1組で行い、マンホール等での事故を想定し、2人が空気呼吸器を着装してスタート地点(塔上)から降下し、検索後に要救助者を抱きかかえて救出し、他の2人と協力して塔上へ引揚げて、救助及び脱出するまでのその安全確実性と所要時間を評価します。

～お知らせ～

～第37回消防救助技術岩手県大会～

◎日 時

平成26年6月27日（金）午前9時30分から

◎場 所

紫波郡矢巾町 岩手県消防学校

◎内 容

岩手県内の各消防本部から選抜された隊員が救助技術訓練の成果を披露し、競い合います。

また、全国・東北大会に出場する隊員を選考する大会でもありますので、久慈消防本部チームの応援をよろしくお願いいたします。